

令和4年度 事業計画

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

I 公益目的事業

[公1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管の委員会

(A) 令和4年度延長する研究専門委員会

- 1) コンクリート構造物の劣化予測における学術研究の役割とその成果の活用に関する研究委員会 (令和2-4年度)
- 2) コンクリート構造物の構造・耐久性シミュレーションにおける検証と妥当性確認に関する研究委員会 (令和2-4年度)
- 3) アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会 (令和2-4年度)
- 4) 性能評価型耐震設計に用いるコンクリート構造物の非線形モデル研究委員会 (令和2-4年度)

(B) 令和4年度継続する研究専門委員会

- 5) 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会 (令和3-4年度)

(C) 令和4年度新規の研究専門委員会

- 6) セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会 (令和4-5年度)
- 7) コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会 (令和4-5年度)
- 8) コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関するFS委員会 (令和4年度FS)
- 9) コンクリートのアカデミックデータベースの整理とAIへの活用に関するFS委員会 (令和4年度FS)

(2) 技術委員会所管の委員会

- 1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会 (令和3-4年度)
- 2) コンクリート圧送工法指針原案作成委員会 (令和3-4年度)
- 3) コンクリート基本技術調査委員会 (令和4-5年度)

- 4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会 (令和 4-5 年度)

(3) 支部研究委員会 (確定している委員会のみ記載)

- 1) (北海道支部) 北海道コンクリート秘話調査研究委員会 III (令和 3-4 年度)
- 2) (北海道支部) 寒冷環境下におけるコンクリートの品質・耐凍害性確保に関する研究委員会 (令和 3-4 年度)
- 3) (東北支部) フライアッシュおよびもみ殻灰のコンクリートへの有効利用に関する研究委員会 (令和元-4 年度)
- 4) (東北支部) 表層品質評価委員会 (令和元-4 年度)
- 5) (東北支部) コンクリートの施工の良否が材料劣化に及ぼす影響に関する調査研究委員会 (令和元-4 年度)
- 6) (中部支部) 中部地域のコンクリート工学の将来像および研究シーズの創出に関する調査研究委員会 (令和 3-4 年度)
- 7) (中部支部) 小規模橋梁を対象としたコンクリート用 DIY 補修のあり方調査研究委員会 (令和 3-4 年度)
- 8) (近畿支部) コンクリート試験の省力化に関わる検討委員会 (令和元-4 年度)
- 9) (近畿支部) 百石齋 (田邊朔郎書齋) 調査委員会 (令和 3-5 年度)
- 10) (中国支部) 中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会 (令和 3-7 年度)
- 11) (四国支部) 四国の生コン技術力活性化委員会【第 5 期】 (令和 2-4 年度)
- 12) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常設委員会)
- 13) (四国支部) 四国における新設コンクリート構造物の品質確保の実践に関する研究委員会 (第 2 期目) (令和 3-4 年度)
- 14) (九州支部) 管理者直営による簡易補修方法の提案と評価に関する研究専門委員会 (令和 4-5 年度)
- 15) (九州支部) 非破壊試験による表層部コンクリートの品質評価に関する研究専門委員会 (令和 3-5 年度)

○延長する研究専門委員会の計画

(1-A-1) JCI-TC201A コンクリート構造物の劣化予測における学術研究の役割とその成果の活用に関する研究委員会 (令和 2-4 年度)

本研究委員会は、構造物の維持管理において必要となる劣化予測を検討対象として、学術研究の成果の活用についてまとめることを目的として 2 年間活動を行った。令和 4 年度はこれまでに検討してきた内容を報告書としてとりまとめ、成果報告会を開催する。

(1-A-2) JCI-TC202A コンクリート構造物の構造・耐久性シミュレーションにおける検証と妥当性確認に関する研究委員会 (令和 2-4 年度)

本研究委員会は、コンクリート工学分野における構造性能評価や長期耐久性評価のためのシミュ

ュレーションを対象として、それらの質の保証や信頼性の向上を目的とした検証と妥当性確認 (Verification & Validation, V&V) の方法論や課題を明確にするとともに、V&V を行う際の具体的な手順を提示することを目的として2年間活動を行った。令和4年度は、コンクリートを対象としたシミュレーションのV&Vに関する実施手引きを内容に含む成果報告書を取りまとめ、成果報告会・シンポジウムを開催する。

(1-A-3) JCI-TC203A アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会 (令和2-4年度)

本研究委員会は、アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動 (弾性限界、曲げ降伏、靱性等) に関する現在の知見を調査し、それら算定法の精度を確認の上、必要に応じさらに精度の良い算定法を検討し、この構造を普及することを目的として2年間活動を行い、報告書を取りまとめた。令和4年度は報告書を発刊し、成果報告会を開催する。

(1-A-4) JCI-TC204A 性能評価型耐震設計に用いるコンクリート構造物の非線形モデル研究委員会 (令和2-4年度)

本研究委員会は、建築・土木構造における、コンクリート構造物の性能評価型耐震設計の実務に用いられている非線形地震応答解析の適用法に関するガイドラインや設計慣行や、適用範囲、モデル化、設計クライテリア、信頼性等の観点からの比較検討に資するための情報など、現状の技術について2年間の調査活動を行なった。令和4年度はその成果を報告書としてとりまとめ、成果報告会を開催する。

○継続の研究専門委員会の計画

(1-B-1) JCI-TC211A 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会 (令和3-4年度)

本研究委員会は、アルカリシリカ反応 (ASR)、エトリンタイトの遅延生成 (DEF)、骨材中の硫化鉱物の酸化によるエトリンタイト生成 (SO) といった内部膨張反応 (ISR) を対象とし、これらに共通する基礎理論を改めて見つめ直し、ISR に関する試験法のあるべき方向性や材料・構造のモデルをセットで提案することで、より実行性のある ISR リスク評価法を世界的にも先行して提示することを最終目標とする。具体的には、まず ISR に関して国内外の先進的な研究事例を基に基礎理論を再整理する。また、ISR に関する数値解析手法や試験・分析手法に関する共通実験・解析を行うことで、その技術基盤を整備し、構造物のリスク評価のための考え方を提示する。SO に関しては、令和3年度の予備実験を基に共通試験等を実施し、国内での SO 劣化のリスクを評価する。

○新規の研究専門委員会の計画

(1-C-1) JCI-TC221A セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会 (令和4-5年度)

本研究委員会は、セメント・コンクリートの環境影響を多角的な視点から総合的かつ統一的に

評価する手法を構築することを目的とする。具体的には、セメント、骨材等のコンクリート構成材料、コンクリートならびにコンクリート構造物等の環境影響評価のモデルケースを構築し、一般に広く提供することを目指す。そのために本年度は、コンクリートの環境影響評価手法に関する従来手法および先進的な手法の妥当性を検証するとともに、環境影響評価において必要となるインベントリデータの整備に向けた最新情報を収集する。

(1-C-2) JCI-TC222A コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会

(令和4-5年度)

本研究委員会では、コンクリートに作用する水が腐食に与える影響について整理し、鉄筋腐食を統一的に取扱うためのシナリオを作成することを目的とする。そのために、次の2つの活動を主に行う。1)文献調査を行い、塩化物イオン存在下、あるいはpHが低下した状態において、腐食に与える水の影響を整理し、体系化する。湿度がどの程度以上であれば湿潤状態なのかについては、塩化物イオン量で変わる可能性があるため、必要に応じて室内試験も実施する。2)実際に乾湿繰り返しにより腐食が進行している構造物の調査を行い、現場における湿潤と乾燥の影響要因を整理する。

(1-C-3) JCI-TC223F コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関するFS委員会

(令和4年度FS)

本FS委員会は、構造物の耐久性等の品質向上のためのブリーディング抑制や高流動コンクリート(締固めを必要とする高流動性のコンクリート等を含む)の配合設計・施工技術等をはじめとして、コンクリート技術において石灰石微粉末を実際的に有効活用していく道筋をつけることを目的とする。具体的には、石灰石微粉末の流通や利用の実状についてアンケート調査等を実施する。また、既往の研究や施工実績等における石灰石微粉末の活用方法や効果に関する文献検索を行い、全体をとりまとめた上で、石灰石微粉末が広範囲なコンクリートに一般利用できる方策の可能性を検討する。

(1-C-4) JCI-TC224F コンクリートのアカデミックデータベースの整理とAIへの活用に関するFS委員会

(令和4年度FS)

本研究委員会は、コンクリート構造物に関する実務での設計や維持管理体系の高度化に対し、今後活用が期待されるAI・機械学習技術の利用を促進させることを目的として、コンクリートの材料および構造両面でのビッグデータの収集方法の構築と、AI・機械学習への活用方法の提案を行う。具体的には、本学会ならびに各種学会で発表された実験および実構造物データを項目ごとに抽出し、これらの整理方法や公開方法を議論し、データを一元的に集約するとともに、これらのデータをAI・機械学習に活用し、コンクリート構造物の構造性能や材料挙動等に関する予測の回帰式等、具体的なモデルの構築手順を提示する。

○技術委員会所管の委員会の計画

(2-1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会

本委員会は、前年度までの5か年にわたる活動に引き続き、共通試験WGおよびモニタリング

WGにて活動を行う。共通試験 WG では、「端島（通称『軍艦島』）における補修材の効果検証に関する共通試験実施についての基本覚書」に則って、端島において様々な補修を施して暴露した鉄筋コンクリート試験体を対象に、定期的に劣化の進行状況や物理的・化学的な変化を観察・測定し、その結果に基づく分析から、塩害劣化の進行・抑制のメカニズムおよび補修効果を検討する。モニタリング WG では、端島に残存する自然倒壊が間近に迫っている建築物（30号棟）を対象に実施されている遠隔地モニタリングの結果に基づく分析・解析を行い、鉄筋コンクリート構造物の自然倒壊のメカニズムおよびその時期の予測について検討を行う。

(2-2) コンクリート圧送工法指針原案作成委員会

本委員会は、平成 29～30 年度に活動した「コンクリート圧送技術調査委員会」において調査した成果を引き継ぎ、令和元～3 年度に「コンクリート圧送工法ガイドライン 2009 および解説」の改正版となる「コンクリート圧送工法指針」の原案作成を行った。令和 4 年度は、指針原案に対する規準・指針管理委員会の審査結果への修正対応を行い、理事会承認を経て指針を刊行する。また、新指針の普及のために講習会を開催する。

(2-3) コンクリート基本技術調査委員会

本委員会は、コンクリート工事の実務者を対象に、コンクリートの製造および施工に関わる基本技術と新技術を整理し情報発信を行うことを目的としている。令和 4 年度は、昨年度に引き続き、準備工 WG で鉄筋工の検討、品質管理・検査 WG で品質管理および検査のあり方の検討を行うほか、運搬 WG でコンクリートの運搬について検討を進める。

(2-4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会

本委員会は、「マスコンクリートのひび割れ制御指針」改訂版の2024年刊行を目指し、2018～2021年度に活動した「マスコンクリートのひび割れに関する調査委員会」の成果を反映した同指針改訂原案を作成する。具体的には、同指針2016年版で検討を見送ったひび割れ発生確率の見直し、簡易評価法の見直しおよび設計用値の見直しを行う。また、「マスコンクリートソフト普及委員会」および「JCI-TC173A エトリングaitの遅延生成（DEF）に関する研究委員会」における研究成果の反映も検討する。

2. 標準化事業

(1) 規準・指針管理委員会

研究専門委員会および規準・指針原案作成委員会等から提案および審査の申請がなされた規準原案・指針原案に対し、「日本コンクリート工学会規準・指針の制定／改正に関する規程」に基づく審査を行い、妥当と判断された原案については理事会へ付議する。また、制定済みの JCI 規準で制定（もしくは前回確認および改正）から 5 年経過したものについて使用状況の調査を行い、確認／要改正／要 JIS 化／廃止の判断を行う。

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

- 1) 主務大臣に改正申出済みの以下の規格について、改正公示に向けて日本産業標準調査会および日本規格協会との調整を図る。

- ① JISA 1107 コンクリートからのコアの採取方法及び圧縮強度試験方法
- ② JISA 1121 ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験方法
- ③ JISA 1123 コンクリートのブリーディング試験方法
- ④ JISA 1136 遠心力締固めコンクリートの圧縮強度試験方法
- ⑤ JISA 1153 コンクリートの促進中性化試験方法
- ⑥ JISA 1156 フレッシュコンクリートの温度測定方法

2) 2024年度に見直し期限を迎える規格について、改正要否の検討を行う。

(3) ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC71 総会および各 SC の会合に TC 委員会マネージャ, SC 議長・委員会マネージャ, WG コンビーナおよび関連分野のエキスパートを派遣し, 日本が主導する規格開発の説明を行い, 規格作成に日本の意見を反映させる。
- 2) ISO/TC71 において, 次の議長, 委員会マネージャ, コンビーナ, エキスパート (WG), および SC 担当委員の役割を遂行する。
 - ① TC71 (コンクリート, 鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリート) : 議長および委員会マネージャ
 - ② SC1 (コンクリートの試験方法) : エキスパート (WG)
 - ③ SC3 (コンクリートの製造及び施工) : コンビーナおよびエキスパート (WG)
 - ④ SC4 (構造コンクリートの要求性能) : エキスパート (WG)
 - ⑤ SC5 (コンクリート構造物の簡易設計標準) : エキスパート (WG)
 - ⑥ SC6 (コンクリートの新しい補強材) : 議長, 委員会マネージャ, コンビーナおよびエキスパート (WG)
 - ⑦ SC7 (コンクリート構造物の維持および補修) : 議長, コンビーナ, エキスパート (WG)
 - ⑧ SC8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント) : 議長, 委員会マネージャ, コンビーナおよびエキスパート (WG)
 - ⑨ TC71/WG1 (コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント) : コンビーナおよびエキスパート
- 3) 国内関係機関と連携し, ISO/TC71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。
- 4) 日本から提案する次の ISO 規格案について, 国内外において情報収集・意見収集を行うとともに, 各国との調整を行い, 早期の規格化を図る。

(新規)

- ① コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントにおける建設 (施工) 段階でのマネジメントに関する国際標準

(継続)

- ① コンクリートの発注・製造・品質管理に関する ISO 22965-1 及び ISO 22965-2 (改正)
- ② コンクリート構造物の地震後継続利用のための性能評価に関する国際標準
- ③ コンクリートおよびモルタル用合成短繊維に関する国際標準

- ④ 繊維強化ポリマー (FRP) によるコンクリートの補強—試験方法 ISO 10406-1 (改正) 及び ISO 10406-2 (改正)
 - ⑤ コンクリート構造物の FRP 補強材 : FRP シートの仕様に関する ISO 18319 (改正)
 - ⑥ セメント系材料を用いた補修補強工法に関する ISO/CD 5091-1, ISO/CD 5091-2, ISO/CD 5091-3 および ISO/CD 5091-4
 - ⑦ コンクリート構造物の維持補修に関する ISO 16311-1 (改正), ISO 16311-3 (改正) および ISO 16311-4 (改正)
 - ⑧ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメントに関する ISO 13315-1 (改正) および ISO 13315-2 (改正)
 - ⑨ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメントに関する ISO 13315-3 (構成材料及びコンクリートの製造), ISO 13315-5 (コンクリート構造物の施工) および ISO 13315-7 (リサイクルを含む最終段階)
 - ⑩ コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントにおける計画・設計段階でのマネジメントに関する国際標準
- 5) ISO/TC156/SC1 (Corrosion control engineering life cycle) のリエゾンマネジャーを務める。
- 6) コンクリート用語 (環境配慮型コンクリートに関する用語を含む) の定義についての検討 WG 発足を ISO/TC71 へ提案すべく, その準備に向けたタスクフォースを ISO/TC71 対応国内委員会に設置して活動を開始する。

(4) 再生骨材に関する JIS 改正原案作成委員会

再生骨材および再生骨材コンクリートに関し, 国内外における利用実態および各国規格・ISO 規格の状況・方向性を見極めつつ, 用途拡大を図り普及を促進させ, 以てカーボンニュートラル社会・資源循環型社会の構築に資することを目的として, 以下の JIS について市場の実態・要求に即した改正原案を作成する。

JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材 H)

JIS A 5022 (再生骨材コンクリート M)

JIS A 5023 (再生骨材コンクリート L)

なお, 本事業は一般財団法人日本規格協会との原案共同作成事業 (公募事業) として実施する。

3. 国際化事業

- (1) *fib* の技術評議会と総会に代表委員を派遣する。
- (2) ACI に代表委員を派遣する。
- (3) RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。

上記の 3 学会の行事の開催はオンライン形式か対面式かは未定である。

- (4) ACF へ代表委員を派遣するとともに, ACF の諸事業活動を積極的に支援する。

なお, 第 4 回 ACF シンポジウムが 11 月 27~29 日に中国 (深圳) にて開催され, ACF 総会・Executive Council 会議等も併せて開催される見込みであるが, 詳細な日程は未定であ

る。

- (5) JCI-ACI Collaboration Committee において、ACI と協力して 2023 ACI Spring Convention にて開催の予定である第 5 回 JCI-ACI ジョイントセミナーの準備を行う。
- (6) 9 月 3~9 日に開催する RILEM Annual Week について、同会議実行委員会にて開催の準備および運営を行う。

4. 受託研究事業

- (1) 国際標準の開発を目的とした次の受託研究業務を ISO/TC71 対応国内委員会にて実施する。
 - 1) 資源循環と CO₂削減を目的としたコンクリート及びコンクリート構造物のライフサイクルの各段階における省エネルギー推進に関する国際標準化
 - 2) Sustainable Development Goals の達成を実現するレジリエントなコンクリート構造物の整備に関する国際標準化 (TC71 幹事国対応業務を含む。)
- (2) 「コンクリートに用いる粉体系材料の環境安全品質に関する研究委員会」では、コンクリートのライフサイクル全般に係る重金属等に関する調査、およびコンクリートに要求される環境安全性、コンクリートに用いる粉体系材料の環境安全性に関する基本的な考え方のとりまとめを目的として 2 年間活動を行った。令和 4 年度はこれまでに検討してきた内容を報告書としてとりまとめ、成果報告会を開催する。
- (3) 「カーボンリサイクル評価方法の JIS 原案作成委員会」において、コンクリート構成材料及びコンクリートのカーボンリサイクル評価方法に関する JIS の開発を行う。

5. 出版事業

- (1) 2022 年度コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'22」
- (2) コンクリート技士・主任技士研修テキスト「2022 年度コンクリート技士・主任技士研修テキスト」
- (3) コンクリート診断士研修資料「コンクリート診断士研修資料'22」
- (4) コンクリート診断士講習テキスト「コンクリート診断技術'23」
- (5) 英文ジャーナル“Journal of Advanced Concrete Technology” (電子公開)
- (6) コンクリート工学年次論文集 第 44 巻 2022 年 (DVD 版)
- (7) Technical Committee Reports 2022 (JCI 研究委員会報告書要旨：電子公開)
- (8) コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 2022
- (9) コンクリート圧送工法指針 2022
- (10) 次の研究報告書を刊行する。
 - 1) 「コンクリート工学におけるシミュレーションの検証と妥当性確認および不確かさ評価に関するシンポジウム」委員会報告書・論文集
 - 2) 「性能評価型耐震設計に用いるコンクリート構造物の非線形モデル研究委員会」報告書

- 3) 「コンクリート構造物の劣化予測における学術研究の役割とその成果の活用に関する研究委員会」報告書
- 4) 「アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会」報告書
- 5) 「コンクリートに用いる粉体系材料の環境安全品質に関する研究委員会」報告書

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

「コンクリート工学」を毎月1回刊行して会員に頒布する。また、会員には発刊1年後に電子公開し、非会員には3年後に電子公開する。

年3回の特集号のテーマは以下のとおり予定している。

- | | |
|---|----------|
| 1) 建設 DX で拓かれる次世代のコンクリート工事業—コロナ禍以降のニューノーマルに向けて— | 2022年5月号 |
| 2) コンクリート構造分野の実験・計測技術 (仮) | 2022年9月号 |
| 3) (未定) | 2023年1月号 |

(2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集を電子公開する。

7. 広報事業

(1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。社会一般に向けた啓蒙活動として、広報委員会のもとでJCIホームページの内容向上を図るとともに、会誌「コンクリート工学」、パンフレット(和文、英文)等により本学会の活動について広報活動を行う。

(2) 普及活動

普及委員会のもとに以下の専門委員会を設置し活動する。

1) マスコンクリートソフト普及委員会

本委員会は、温度応力に加え湿気移動を考慮した乾燥収縮および自己収縮を考慮した3次元応力解析ソフトJCMAC3、初期応力を考慮した3次元保有耐荷力解析ソフトJCMAC3-U、2次元による応力解析およびひび割れ幅解析ソフトJCMAC1・2のサポートならびに普及を図ることを主な事業活動とする。令和4年度の活動は以下のとおりである。

① JCMAC3, JCMAC3-U のバージョンアップ

- ・コンクリート強度特性の追加

② JCMAC3 初級セミナー (1回) の開催

③ JCMAC3-U の英語版の海外への普及活動

ACI 2nd 24Hours of Concrete Knowledge Conference での発表

④ JCMAC-PS の開発

(JCMAC3-U にプレストレスの導入を考慮できる機能を追加したバージョン)

⑤ YouTube を利用した JCMAC 3 Tutorial 動画の作成

⑥ JCMAC1,JCMAC2,JCMAC1・2,JCMAC および JCMAC3-U のサポート

2) コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針普及委員会

本委員会は令和 4 年度に改訂される「コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針 2022」の講習会の実施等により同指針の普及を図ることを主な事業活動とする。令和 4 年度の活動は以下の通りである。

①改訂要旨オンライン(オンデマンド形式) 報告会の実施

②国内講習会(東京, 大阪, 福岡)の実施

③2022年版指針本体に対する質問や修正指摘等への対応

④2022年版指針マンション編に対する質問や修正指摘等への対応

⑤2022年版指針ひび割れ判定ソフト Web 版に対する質問や修正指摘等への対応

⑥2022年版指針英文化の準備

3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会

本委員会は, 現行の「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト LECCA シリーズ」の普及活動に加え, LECCA シリーズをベースとした初学者向けの教育プログラムを作成することを主な事業活動とする。また, コンクリート構造物の耐久設計や維持管理に関する知識と経験が不足している初学者向けの講習会や大学等での講義への活用方法を検討するとともに, その成果を教育プログラムの改良に繋げる。

(3) 電子情報化

情報コミュニケーション委員会において, 本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行い, 定期的な更新による情報発信および広報活動を主な事業活動とする。活動は以下のとおりである。

1) 月刊コンクリート技術(一般向けコンテンツ)を公開する。

2) 増刊コンクリート技術(会員向けコンテンツ)を会員専用ページに公開する。

3) メールニュースを作成し配信する。

4) コンクリート基本技術(不具合事例)の紹介を会員専用ページに公開する。

5) 研究委員会報告書を会員専用ページに公開する。

6) ホームページを活用したコンクリートに関する技術や研究成果の普及に向けた取り組みを行う。

7) ホームページを活用した広報に関する方策を検討する。

8) ホームページリニューアル(2022年7月を予定)に関する作業への対応および, 追加リニューアル内容の検討

8. 関連学会との協力活動

(一社)「防災学術連携体」および日本原子力学会主催「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議」に委員を派遣するほか、「建設系7学会会長会議」に参画するなど、他学協会との協力活動を行う。

9. 助成金事業

助成金制度規則に基づき、コンクリートに関する研究助成およびコンクリートに関する国際会議参加助成を行う。助成の件数は、応募件数および収支状況等を勘案し、適切な数とする。

[公2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2022 (千葉) を7月13日(水)～15日(金)の3日間、オンラインで開催する。

- 1) 第44回コンクリート工学講演会
- 2) 生コンセミナー：テーマ「挑戦する生コン業界」
- 3) コンクリート構造物診断セミナー：テーマ「ハタチの診断士～二十年を迎えた診断士のこれから～」
- 4) 特別講演会：講師 春日 昭夫氏 (国際コンクリート連合 (fib) 会長)
演題 「カーボンニュートラルに対するコンクリートの課題と fib の戦略」

2. 講演会, 講習会, シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

2022年度コンクリート技術講習会を10月～11月にかけてオンライン (オンデマンド形式) で実施する。

(2) 研究委員会

研究委員会所管の報告会, シンポジウムを次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリート工学におけるシミュレーションの検証と妥当性確認および不確かさ評価」に関するシンポジウム
日 時：8月26日(金)
場 所：オンライン (ライブ形式)
- 2) 「性能評価型耐震設計に用いるコンクリート構造物の非線形モデル研究委員会」報告会
日 時：9月12日(月)
場 所：オンライン (ライブ形式)

- 3) 「コンクリート構造物の劣化予測における学術研究の役割とその成果の活用に関する研究委員会」報告会
日 時：9月22日（木）
場 所：オンライン（ライブ形式）
- 4) 「コンクリートに用いる粉体系材料の環境安全品質に関する研究委員会」報告会
日 時：9月29日（木）
場 所：オンライン（ライブ形式）
- 5) 「アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会」報告会
日 時：9月30日（金）
場 所：オンライン（ライブ形式）

(3) 技術委員会

技術委員会所管の講習会を次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリート圧送工法指針2022」講習会
日 時：未定
場 所：未定

(4) 普及委員会

普及委員会所管の講習会，セミナーを次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリートのひび割れ調査，補修・補強指針2022」改訂要旨オンライン報告会
日 時：6月10日（金）～6月30日（木）
場 所：オンライン（オンデマンド形式）
日 時：未定（東京会場）
場 所：未定
日 時：未定（大阪会場）
場 所：未定
日 時：未定（福岡会場）
場 所：未定
- 2) 「マスコンクリートソフト普及委員会」JCMAC3初級者セミナー
日 時：未定
場 所：未定

(5) 支部

支部主催の講演会，講習会，報告会を次のとおり開催する。（確定している項目のみ記載）

- 1) （北海道支部）支部活動報告会特別講演会
日 時：5月20日（金）
場 所：オンライン
演 題：未定

- 講 師：深瀬孝之氏（北海道科学大学）
- 2) (北海道支部)「北海道コンクリート秘話調査研究委員会Ⅱ」報告会
日 時：5月20日（金）
場 所：オンライン
 - 3) (北海道支部)「コンクリートの日 in HOKKAIDO」見学会
日 時：9月頃
場 所：未定
 - 4) (北海道支部)「コンクリートの日 in HOKKAIDO」出前講座
日 時：9月頃
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
 - 5) (東北支部)「東北地方のコンクリート構造物の品質・耐久性確保に関する調査研究委員会」
報告会
日 時：7月頃
場 所：未定（対面を検討しているが状況によりオンライン開催）
 - 6) (東北支部) 第16回コンクリート診断技術研鑽のための勉強会
日 時：10月頃
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
 - 7) (関東支部) キング・オブ・コンクリート 2022
日 時：未定
場 所：未定
 - 8) (中部支部) 支部活動報告会特別講演会
日 時：5月31日（火）
場 所：名古屋大学
演 題：「中部地域のコンクリート構造物を守るために」
講 師：山内 昌氏（東海コンクリート診断士会）
原田和樹氏（インフラメンテナンス国民会議中部フォーラム）
山田和夫氏（愛知工業大学）
 - 9) (中部支部) 支部総会特別講演会
日 時：令和5年1月
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定

- 10) (近畿支部) 支部総会特別講演会
日 時：5月16日(月)
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 11) (中国支部) 支部総会特別講演会
日 時：5月20日(金) 15:00～17:00
場 所：広島工業大学・広島校舎
演 題：「生コンクリートの呼び強度と土木学会における特性値」
講 師：綾野克紀氏(岡山大学)
- 12) (中国支部) 特別講演会—新赴任教員の研究紹介—
日 時：未定
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 13) (中国支部) 「わかりやすいコンクリート」講習会
日 時：12月
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 14) (中国支部) 「中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会」報告会
日 時：令和5年3月
場 所：未定
- 15) (四国支部) 「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」活動報告会
日 時：5月10日(火)
場 所：香川県生コンクリート工業組合(オンライン)
演 題：第14回コンクリート甲子園, モデル活動校多度津高校
講 師：未定
- 16) (四国支部) 生コンセミナー in 香川
日 時：7月
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 17) (四国支部) コンクリートに関する技術情報交換会
日 時：未定
場 所：オンライン

演 題：未定

講 師：未定

18) (四国支部) 見学会

日 時：10月～11月

場 所：未定

19) (九州支部) 支部活動報告会特別講演会

日 時：4月22日(金)

場 所：大博多ビル1123

演 題：未定

講 師：武若耕司氏(鹿児島大学名誉教授)

20) (九州支部) 学生シンポジウム

日 時：未定

場 所：未定

演 題：未定

講 師：未定

21) (九州支部) 令和4年度JCI九州支部現場見学会

日 時：未定

場 所：未定

3. 国際会議

以下の国際会議を開催する。

- (1) 76th RILEM Annual Week 2022 and International Conference on Regeneration and Conservation of Structures (ICRCS 2022) を、9月3(土)～9日(金)に京都リサーチパークにて開催する。

[公 3 表彰事業]

1. 学会賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

- (1) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し「日本コンクリート工学会賞(論文賞)」を贈り表彰する。
- (2) 本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著者に対し「同(技術賞)」を贈り表彰する。
- (3) コンクリート構造物の美的価値、創造性および環境との調和において技術面も含めて優

れている造形物を対象に、その構築に貢献した者に「同（作品賞）」を贈り表彰する。

(4) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に、40歳未満の著者に「同（奨励賞）」を贈り表彰する。

(5) 本学会事業の発展のために長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同（功労賞）」を贈り表彰する。

2. 支部表彰

以下の5つの支部において支部表彰を行う。

(1) 支部功績賞、支部優秀学生賞の対象者を募集し、支部のコンクリート工学の発展に著しい貢献をした者および優れた研究成果をあげた学生に対してそれぞれ表彰する。（北海道支部）

(2) 論文賞・技術賞・功労賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。（東北支部）

(3) 支部奨励賞の対象者を募集し、コンクリートに関する優れた論文あるいは報告の40歳未満の著者に対して表彰する。（近畿支部）

(4) コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター認定者」とする。（中国支部）

(5) 九州・沖縄地区の大学、大学院、高等専門学校において、コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生、修了生に支部長賞を与える。（九州支部）

II 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・コンクリート主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・主任技士試験

コンクリート技士・主任技士試験を11月27日（日）、全国9都市において実施する。

(2) コンクリート技士・主任技士研修

コンクリート技士制度に基づくコンクリート技士・主任技士研修を、登録有効期間（4年間）満了となるコンクリート技士・主任技士登録者および未登録者を対象として、eラーニングにて、8月22日（月）から9月30日（金）まで実施する。

(3) コンクリート技士・主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて、コンクリート技士・主任技士研修を受講し、登録有効期間（4年間）満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート技士・主任技士試験合格者の申請により登録を行う。

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習

コンクリート診断士講習をeラーニングにて、4月8日(金)から5月16日(月)まで実施する。

(2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を7月24日(日)、全国9都市において実施する。

(3) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士制度に基づくコンクリート診断士研修を、登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート診断士登録者および未登録者を対象として、10月にeラーニングにて実施する。

(4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士研修を受講し、登録有効期間(4年間)満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート診断士試験合格者の申請により登録を行う。

3. 資格・講習委員会

各資格関係委員会での検討内容を審議、承認を行う。また、コンクリート技士・主任技士およびコンクリート診断士の合格者の内定を行い、理事会に付議する。必要に応じて国土交通省技術者資格の登録・更新を行う。

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ2022

コンクリート工学年次大会2022(千葉)と併行して、オンラインバーチャル会場にてコンクリート関連企業および団体による、新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

III その他

1. 名誉会員の表彰

定款第12条および関連する内規に基づき、定時社員総会の決議を経て、本学会の目的達成に多大な貢献をした会員に、名誉会員の称号を贈る。

2. 終身会員およびフェロー会員の表彰

定款第12条および関連する内規に基づき、理事会の決議を経て、コンクリート工学の見識に優れ、本学会の活動を長年にわたり支援した会員に終身会員の称号を、また、コンクリート

工学の見識に優れ、責任ある立場で長年にわたり指導的役割を果たし社会に貢献した会員にフェロー会員の称号を贈る。

3. 定款・規則改定

定款の改定，学会規則の改定に関して審議し，理事会に付議する。

4. 選挙管理委員会

代議員の任期満了に伴い，代議員選挙規則に基づき，代議員選挙を実施する。

以上